

社会人対象講座 キャリアアッププログラム

Basic subject Career Up Program

広島経済大学キャリアアップ・プログラム・メールマガジン 第117号(2014.06.05 発行)

なお、本メールが不要な方は career-up@hue.ac.jp までご連絡ください。

【CP 通信第 116 号巻頭言の訂正とお詫び】

巻頭言の文章に誤って『ソニーの森田昭夫氏』と記載していました。正しくは『ソニーの盛田昭夫氏』です。

訂正いたしますと共に関係諸氏にお詫び申し上げます。またご指摘をくださったCP通信読者の方にお礼を申し上げます。

本学 HP の CP 通信バックナンバーでは訂正してありますのでご覧ください。

(編集者)

【目次】

- ・巻頭言 広島経済大学 経済学部
教養教育部 准教授 木本 一成
- ・経大見聞録
- ・6/15 オープンキャンパスのご案内
- ・1 学期 CP 授業風景(写真)
 - 火曜日 企業財務と証券投資の基礎
 - 水曜日 「CSR:企業の社会的責任」入門
 - 水曜日 ビジネス文章表現
- ・ボストンからのエッセー 『ボストンでの生活をはじめて』
- ・読者の皆様からのエッセーの投稿をお待ちしております
- ・CP/CS に関する、ご質問やお問い合わせは

■巻頭言

広島経済大学 経済学部

教養教育部 准教授

木本 一成

1 学期 CP 講師『ビジネス文章表現』

「日本語文章表現」と批判的思考

本学の科目「日本語文章表現」は、初年次の学生全員を対象とした必修科目である。授業での C 評価以上と協会が実施する検定試験の合格が単位認定の条件になっている。この科目で学生が最も苦手とする単元が、意見文の作成である。その意見文の課題文とは、たとえば次のようなものである。

新聞記事に関して、「新聞記事の漢字にはすべて振り仮名をつけるべきである」という意見と、「漢字のすべてにまで振り仮名をつける必要はない」という意見があります。あなたはどちらの意見がよいと思いますか。どちらかの立場に立ち、後に示した発想材料を参考にして、あなた自身の材料を用いて意見文を書きなさい。次の条件を守ること。…(以下略)…。(『文検 過去問題集3級 平成 20・21 年度版』日本語文章能力検定協会より)

理由づけが適切であればどちらの立場でもかまわないことになっているが、この課題文にかぎっては、後者に賛成という意見文を書く人がほとんどだろう。なぜなら、そのほうが理由が書きやすいからである。仮に前者に賛成の意見文を書くとして、その理由を「新聞には難しい漢字があって困ることがある。新聞に振り仮名がつていれば難しい内容の記事、たとえば専門用語が多い経済欄や政治欄、国際欄を読む人が増えるだろう」とするとどうだろうか。確かにそういうことも理由になりそうな気がするが、論理的にみると適切でない。課題文が問題にしているのは漢字の「すべて」であるのに対して、ここでは「難しい漢字」のことしか取り上げていないからである。前者に賛成の意見を述べるのであれば、「難しい漢字」のほかに「一」「山」「川」などの平易な漢字にも振り仮名をつけることについて言及しなければならない。

このような意見文を書くには、言葉の知識や文章表現力はもちろん、論理的に考える力が求められる。自分の考えを意見と理由に分ける、理由で取り上げることがらを構造化し関係づける、ものごとを多面的・客観的にとらえるなどの思考とともに、自分とは異なる考えを想起し反論する力も必要とされる。異なる考えを想起し反論するという思考は、いわゆる批判的思考と呼ばれるものである。批判的思考は、他者に向けられるとともに、内省的に自分自身にも向けられ、自己の考えを対象化し論理的に表現することに繋がっていくという点で意義がある。多くの大学で初年次の学士課程教育の中に日本語文章表現科目(「アカデミック・ライティング」などの科目名がつけられていることが多い)が設置されている理由が分かる。

さて、批判的思考は学士課程教育だけに求められるものではない。たとえば、「学校教育法」には、高等学校における教育の目標として次のようにある。

「個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。」(第 51 条の 3。下線は筆者。以下同じ。)

また、中学・高校の国語科の学習指導要領の読むことの指導内容には、「評価」という用語を用いて批判的思考について次のような記述がある。

「文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価すること。」(高校・現代文 B)

「文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。」

(高校・国語総合)

「文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。」(中学・3 年)

小学校では直接的な記述はないが、「小学校学習指導要領解説国語編」の 5・6 年の「説明的な文章の解釈に関する指導事項」の箇所次のような記述があり、批判的思考の前段階にあたる指導が示されている。

「筆者が、どのような事実を事例として挙げ理由や根拠としているのか、また、どのような感想や意見、判断や主張などを行い、自分の考えを論証したり読み手を説得したりしようとするのかなどについて、筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握し、自分の考えを明確にしていくこと」

このように並べてみると、小中高から大学へと批判的思考力を段階的に育成しようとする意図が見えてくる。

小中高における批判的思考の導入には、OECD の PISA 調査の結果が大きく影響していることはいうまでもないが、決してそれだけではない。学校教育における批判的思考の指導の歴史は意外と古い。国語科にかぎってみれば、1960年代に東京都の公立小学校教員であった小松善之助が説明文を用いた優れた実践を行っている。小学5年の児童を対象にした説明文「魚の感覚」の読みの授業である。その実践報告には、小5の児童が、用語の定義、帰納法的な推論過程、条件の確認、表現の強調などをめぐってテキストを批判的に読んでいく様子が克明に記録されている。

残念なことに、小松やその仲間(小松が所属していた民間教育団体である「児童言語研究会」)が取り組んだ批判的思考の指導は、一般には普及しなかった。当時の学校教育界では、論理的思考と批判的思考の関係が理解されていたからである。小松は次のように述べている。

現行の教科書(昭和45年版)に次のような文章がある。

①犬の耳は、人間には、とてもかなわないような、小さな音でも、聞きとることができます。②たとえば、犬は、ねているときでも、人が道を歩くと、耳を人の動く方向に動かします。③人が立ちどまれば、目をあけて、立ち上がり、じつとようすを、うかがいます。

(教出3年下「犬の話」)

「正確に読む」ということを「書いてある通りに読む」と解釈して、この文章を読むとすれば、②の文と③の文は、①の文の例示であると考えられるであろう。①と②・③との間には「たとえば」という例示のつなぎことばがはいっているからである。わたしは、ある公営の研究会で、この文章を取り上げ、

「『たとえば』と書いてあるからと言って、安易に例示だと決めこむわけにはいかない。」

といて、次のように分析して提案したことがあった。

かりに、ことば通りに例示だとすると、②文と③文は、①文に書いてある内容につながるように、「人間には、とてもわからないような、小さな音を、聞きとる」という例が書かれていなくてはならないはずである。なのに、②、③に書かれてあるのは、「人が道を歩く音」である。この音は、「人間には、とてもわからないような、小さな音」とは限らないではないか。道を歩くのに、「人間には、とてもわからないような、小さな音」しか出さないように注意することは、特別の場合であろう。これでは、例示である、と決めこむわけにはいかない。

大部分の先生がたはわたしの提案に賛成してくださったが、中年の女の先生ひとりが反対された。その先生のご意見は、おおよそ次のようなものであった。

たとえばと書いてあるのだから、すなおに例として読みとるのが、国語科としての正しい読み方である。それが科学的にみて正しいかどうかは理科の学習として詳しく扱えばよい。

わたしは、さらに自分の意見を補って、

国語科の責任分担として、「たとえば」ということばの正しい使い方を教えなければならない。「たとえばの正しい使い方」ということは、とりもなおさず、「たとえばということばを使って、物ごとを正しく考える」ことである。とすれば、実際には例示になっていない関係の文を「たとえば」でつなぐことを、教師として認めるわけにはいかないのではないか。

と語ったのであった。けれども彼女は、「国語科として」とか、「すなおな読み」とかいう理由をたてにして最後までわたしの提案を拒否されたのであった。

児童言語研究会 1971『国語科新教科書の分析と批判 —説明文教材編—』pp.14-15

「中年の女の先生」が、すなおに読むことや、理科と国語の違いを取り上げて反論したとある。いま見るとおかしな主張ではあるが、当時はこのような考え方が主流だったのだ。学習者はテキストに従属する存在であり、いかに効率的に内

容を受容するかが求められていた時代だったのである。したがって、「大部分の先生がたはわたしの提案に賛成してくださった」とあるが、小松の提案を正しく受け止めて納得したとは想像しにくい。この文章の、この箇所に限ってはどのように解釈することができる、と単に納得しただけのことではなからうか。

なお、自分のことをいうと恥ずかしいが、自分が中学生相手にささやかな批判的思考の授業ができるようになるまでには、ずいぶんの年月を要した。題材を替えては学習指導案を何枚も書き、学習者を混乱させる失敗実践を何回も繰り返してしまった。大学時代の恩師の先生から懇切なご指導を度々受けたのはいうまでもない。それほど批判的思考の指導は難しいものである。「日本語文章表現」の授業で学生がなかなか意見文が書けないのも無理のないことである。自分が何につまずいたのかを思い出しながら、その失敗経験を指導に生かしたいと思っている。

ところで、さきの文②・③は、どのように書き直せばよいのだろうか。次のような事例はどうだろうか。

a. たとえば、犬は、居間で大音量の音楽を聴いている家族のそばにいても、階段を降りてくる人の足音を聞き取ることができます。

b. たとえば、犬は、コウモリが発する高周波のように人間が聞くことができない音を聞き取ることができます。(←事実の真偽は)

c. たとえば、犬は、眠っているときでもまわりの音を聞こうとしているので、耳をぴくぴく動かすことがあります。

いずれの例も不適切である。aは「聞き分ける」能力の例だし、bは聞き取ることができる「音域」の例である。cは、単に犬の「睡眠」の特徴の例に過ぎない。

みなさんは、どんな例をあげますか。

■経大見聞録

本学のHPに掲載してある記事をご紹介します。生き活きた明るい学生の表情がうかがえます。URLをクリックして、本学の学生たちの様子をご覧くださいいただけます。

お仕事等の気分転換、コーヒープレイクにご覧いただけましたら幸甚です。

【5/17】2014 年度前期交換留学生、祇園公民館 んごん遊び隊の農園作業体験に参加

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/abroad/news/news/0000007765.html>

【5/15】キャリアセンター進路・就職支援プログラム「留学生就職ガイダンス」を開催しました

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/career/news/news/0000007770.html>

【5/19～23】マナー向上委員会、学友会が中心となり「キャンパスクリーンウィーク」の期間中、教室の清掃活動等を行いました

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/news/news/topics/0000007794.html>

【5/20】キャリアセンター進路・就職支援プログラム「4年次生対象ガイダンス」を開催しました

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/career/news/news/0000007784.htm>

【5/22】キャリアセンター就職支援プログラム「第6回学内合同企業説明会」を開催しました

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/career/news/news/0000007779.html>

【5/25】プロスポーツによる地域活性化プロジェクト、若旅促進プロジェクトが「みやじまシャルソン 2014」に協力しました

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/koudoukan/news/topics/0000007790.html>

【5/25】中高生の夢・笑顔!!実現プロジェクトが工作イベントを開催しました

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/koudoukan/news/topics/0000007795.html>

【5/29】第3回国際スポーツサロンを開催しました

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/news/news/topics/0000007818.html>

【5/30】硬式野球部が広島六大学野球春季リーグ戦で優勝しました！

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/circle/news/news/0000007800.html>

【5/31】オープンキャンパス学生スタッフがマナー講習会に参加しました

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/news/news/topics/0000007801.html>

【6/2】平成26年度 興動館プロジェクト認定式を開催しました

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/koudoukan/news/topics/0000007809.html>

【6/2】「100円朝食」を開始しました

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/news/news/topics/0000007821.html>

■オープンキャンパスのご案内

6月15日 日曜日は本学のオープンキャンパスが開催されます。

参加申し込みは不要です。【詳細は】 http://www.hue.ac.jp/exam/open_campus/index.html

当日は各地域から無料送迎バスが運行いたします。ご利用をお考えの方は下記のURLをご覧ください。

【無料送迎バスの出発地と時間】 <http://ec-knt.jp/hue/index.html>

■1学期 CP 授業風景

5月19日月曜日から始まりましたCP講義の授業風景をご紹介します。

今回はCP火曜日の『企業財務と証券投資の基礎』、水曜日の『「CSR:企業の社会的責任」入門』、『ビジネス文章表現』の授業風景です。

【企業財務と証券投資の基礎】

5月20日 火曜日 講師:重本 洋一先生 経済学科 准教授



【「CSR:企業の社会的責任」入門】

5月21日 水曜日 講師:岡田 齋先生 経営学科 教授



【ビジネス文章表現】

5月21日 水曜日 講師:木本 一成先生 教養教育部 准教授



■ボストン留学中の山内 昌斗先生からのエッセー

今年1年間の予定でボストンに留学されています、山内先生よりエッセーが届きましたのでこの場をお借りしましてご紹介いたします。先生はCPが開設になった2008年度から昨年度まで続けて6年間CP講師をされていました。

また一段と研究に磨きをかけられ、CPに戻って来られると思います。

経営学科 准教授

山内 昌斗

ボストンでの生活をはじめて

外国研修のため、4月から1年間の予定でボストンに滞在しています。桜が見頃を迎える季節に日本を離れ、ボストンに到着するとまた日本の冬の季節に逆戻りでした。気温は日中でも10度程度でした。セーターにダウンジャケットを着て寒い街を歩かなければなりません。ただ、こちらの方からすると10度という気温は暖かいようで、女の子などはノースリーブのワンピース姿でサングラスを髪に掛け、アイスクリームを食べながら街を歩いていました。「うわっ、寒くないのかな?」と思っていると、向こうからは「まだセーターを着ている。ファニーだ。」なんていう声が聞こえてきました。

さて、ボストンに来て感じたことは、こちらの方はコミュニティーを大事にし、積極的に投資をしているということでした。大学では講義期間中に毎日のようにセミナーが開催されていますが、参加費は無料で、しかもサンドイッチのほかに、クッキーやポテトチップス、果物、コーラやコーヒーなどが提供されるのです。キャリアアップ・プログラムの授業で、サンドイ

ッチやポテトチップスを食べ、コーラを飲みながら講師の話聞き、質問している様子を思い浮かべてみると良いと思います。たぶん、日本では文化的に馴染まず実現されることはないでしょう。でも、よく考えてみると、脳にブドウ糖を送りながら議論に参加するということは理にかなっているのです。参加者はリラックスしながら積極的に質問するので、場のコミュニケーションが活発になるのです。しかも無料なので、学生が昼食やおやつを食べながら参加できるのです。このように場をオープンにし、気軽に参加できる仕組みがつけられているのです。

こうした仕組みは大学以外の場でもつくられています。たとえば、地域の方を対象にしたピクニックではお菓子や飲み物、バスの交通費が無料で提供されますし、また地域のイベントでも T-シャツや子供用のぬいぐるみが無料で配られたりします。こうしたイベントにより参加者は個々に自由に楽しみ、互いに知合いになることができます。

では、これらの費用はどこから出されているのかというと寄付金などのようです。日本では寄付金というと困っている人を助けるために使われることが多いと思われませんが、こちらでは一般の市民が自分たちのコミュニティーをより豊かにするために寄付金を活用しているのです。寄付金を飲食に使うということは日本では考えられないことだと思います。このあたりが日本と発想が違うところだと思います。宗教、税制、文化などがその背景にあると思います。

ボストンは 1 週間もあれば観光地のすべてを巡ることができるような小さな街です。ただ、人と交流できる場が多く、飽きることがありません。人々は親切で、互いに助け合いながら生きているように思われます。昨年のボストンマラソンでのテロ事件が、互いの絆をさらに強めているのかもしれませんが、こうした環境に身を置きながら、研究を進めていきたいと思えます。



【エッセー編集後、山内先生からボストンの写真とコメントをいただきました】

アパートから撮ったチャールズ河の写真も添付しておきます。

(セミナーには)サンドイッチのほかに巻き寿司もよく出ますね。ベジタブルロールではありますが。

寿司はスーパーでも売られています。

それでは、また季節の変わり目にでもエッセーを送らせていただきます。

■読者の皆様からのエッセーの投稿をお待ちしております

皆様からのエッセーを募集しています。日常の出来事、つぶやき何でも構いません。また匿名やペンネームで結構ですのご投稿をお願いいたします。(個人情報取り扱いは十分配慮いたします)

【エッセーご寄稿頂ける方は】

どなたでも結構です。寄稿頂ける方は career-up@hue.ac.jp または 082-871-9345 までご連絡ください。掲載の日程をご連絡いたします。

■キャリアアップ・プログラムに関する、ご質問やお問い合わせは下記の連絡先へ、ご遠慮なくご連絡ください。

731-0192

広島市安佐南区祇園五丁目 37-1

広島経済大学

教育・学習支援センター 教育支援課

お問い合わせは電話番号(082)871-9345 または E-mail career-up@hue.ac.jp までどうぞ。

HUE 広島経済大学
CAREER UP PROGRAM